

## 【教育設計に関する分野】

### ■重点課題名：「教育の質向上」

- (1) 新教育課程の編成…学力定着及び高大接続(大学新入試制度)に対応できる教育課程の検討
  - \* 「教育課程改革プロジェクト」を昨年度より引き続き設置し、2021年、2022年度の教育課程の変更。
  - \* 文理進学類型への新システム「トベルサ」（土曜日活用システム）を実施。トベルサの検証を行うため教員アンケートを実施。
- (2) 教員研修の充実
  - ①授業づくり研修
    - \* 授業アンケートをもとに分析報告会を実施。分析報告会后、教科会を実施。教科研究授業を地歴公民、理科、英語で実施。
  - ②教員研修…下記研修を実施。
    - \* 大学入学共通テスト研修、スタディサポート研修、ICT研修(Classi)、新教務システム研修（4回）、新学習指導要領研修、ハラスメント研修、ICT活用研修、長野県総合教育センター主催の教科研修(9名、延べ17講座)、法人支援による教科研修(12名、延べ14回)・プロジェクト研修(15名、延べ9回)・意識醸成研修「トップダウン思考からの脱却」（外部講師）、授業アンケート研修
- (3) ICT教育の充実 新教務システムの導入
  - ①ICT活用について
    - \* 3教科で研究授業実施。電子黒板等の使用率も向上。専任職員全員にiPad支給。
  - ②新教務システムの導入
    - \* 新教務システムの導入は完了し、新システム研修会を計4回実施。

### ■重点課題名：生徒等の付加価値向上と満足度向上

- (1) 不登校生徒対応…病気による不登校傾向の生徒が増加
  - \* 担任と学年会で1人ひとりの状況を確認し対応策を検討。
  - \* スクールカウンセラー週2回の常駐
  - \* 教職員の生徒指導のスキルアップ対応。
- (2) 資格取得率の向上…目標：資格取得率30%
  - \* GTEC受験者が増加。（探究国際で報告）
  - \* 漢字検定、数学検定への取組
  - \* 資格取得の受験方式変更（大学共通テストの影響）への対応を検討。
- (3) 生徒・保護者の満足度向上
  - ①生徒活動の様子を発信…魅力ある学校生活や授業内容を発信
    - \* 探究コースの取り組み・留学生の活動・海外の学校との交流など、魅力ある授業や特別教育活動を実施し、ホームページで発信を管理。
  - ②アンケート(新入生・新入生保護者・卒業生・授業アンケート、地区PTA)
    - \* 計画したものはすべて実施。学校に対しての要望をまとめ、学習環境等の改善を実施。
  - ③教員の指導体制…教員の生徒への面談時間確保の施策を検討
    - \* 生徒に接する時間を増やすため、学年会を授業時間内に行い、部会と職員連絡会を同じ曜日とし、放課後の会議時間を短縮。
    - \* 働き方改革と絡めて、時間確保をさらに進める必要がある。

## 【進路指導に関する分野】

### ■重点課題名：生徒等の付加価値向上と満足度向上

#### (1) 進学実績

##### ① 合格実績

- ・国公立大学合格：23名（内浪人2名）[信州大5（人文1・経法1・教育2・工1）・金沢大2（理工1・医保健1）・名古屋工大1（工）宇都宮大1（国際）・山梨大1（工）・奈良教育大1（教育）・長野県看護大1（看護）・長野県立大1（グローバルマネジメント）・公立諏訪東京理科大3（工3）など]
- ・東京都市大学：11名
- ・私立大学合格：187名（現役のみ）[立命館大5（文・産業社会・政策科学部・理工2）・明治大1（政治経済）・法政大2（社会2）・関西大2（政策創造2）・成城大1（経済）・武蔵大3（人文・経済2）・芝浦工業大5（工4・システム理工）日本大3（商・理工・法）・東洋大6（文3・理工3）など]
- \*国公立大合格者は、現役が昨年の13名から21名と約62%増加し、5年前と比較すると7倍となった。難関私立大学（GMARCHクラス）合格者も、昨年の3名から10名と約233%増となった。大学進学者の比率も昨年の38%から49%に10%以上増えており、学年の約50%が4年制大学へ進学するようになった。

##### ② 進路・学習指導とセンター試験

- ・センター試験受験者数：161名（昨年121名，33%増加）
- (ア) 学習支援センターは、自学自習できる席を増やし、静粛を求めて3年生が集中して取り組める環境に改善し、利用人数が増加した。
- (イ) 信州予備校と従来の放課後講座・季節講座を行うとともに、年末からセンター直前まで新たに松本大学予備校と受験講座を実施した。
- (ウ) 例年どおり朝テスト・放課後講座・夏・冬期休業進学講座・学習合宿を実施した。
- (エ) 信州大学より卒業生を含め11名の学生チューターを採用し、1～3年の個別指導にあたった。
- ・個人面談の充実  
模試分析に基づく個別進路面談指導を、進学指導担当と3学年担当が協議し、こまめに進路・学習指導の個別面談を実施。志望校の調整や受験勉強について、個別にきめ細かく相談・修正を行った。

#### (2) キャリアセンターの充実とキャリア教育の完成

##### ○ 就職内定率100%

- ・就職希望者27名全員が内定（100%）
- ・新規就職先の開拓。
- ・医療系進学者へインターンシップ。
- ・2学年対象進路説明会：15校（大学、短大、専門学校）。
- ・3学年へマナー講座を実施。

## 【生徒活動に関する分野】

### ■重点課題名：生徒活動の活性化

#### (1) 部活動の活性化と強化部の拡大

##### ①部活動加入状況

- \* 部活動加入率は全体で 64.3%(文理進学類型で 68.4%)

##### ②大会成績

- \* 全国大会：3 団体(女子バレーボール部、女子水泳、男子スピードスケート)  
スピードスケートはジュニアワールドカップ出場
- \* 北信越大会：4 団体(野球、サッカー、女子バレーボール、女子水泳)
- \* 県大会：9 団体(野球、サッカー、女子バレーボール、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、ラグビー、剣道、女子水泳、吹奏楽)

- 準強化部としてソフトテニス部・ラグビーフットボール部の 2 部を指定。

#### (2) 生徒会活動の活性化

##### ①生徒会本部・各委員会で生徒が主体となる企画の運営

##### ②文化祭での各学年ステージ発表（半日を使い全員参加で一般にも公開）

##### ③ボランティア活動の推進

##### ④生徒活動部内に「豊かなクラスづくりプロジェクト」をおく。

- \* 文化祭では昨年引き続き模擬店で使用するトレーのリサイクルに取り組んだ。使用枚数が昨年比 1.8 倍となり企画が定着してきた。回収率も 92%と高い結果であった。
- \* 人工芝グラウンドで初めての体育祭を実施した。日の出保育園児も招き、活気ある体育祭となった。
- \* 文化祭では学年発表に加え探究コース生徒による探究活動の発表も行った。
- \* 信州花フェスタ 2019（長野県開催）に参加し、小坂田公園サテライトに出展した。
- \* 通学路花いっぱい運動の植栽活動を実施した。
- \* 田川のシバザクラ植栽活動を実施した。
- \* クリーンキャンペーンは雨天中止とした。

#### (3) 生徒指導

##### ①制服着用・整容指導

- \* 月 1 回の身だしなみ検査、朝・夕の立門、駅前指導を実施
- \* 朝の遅刻防止指導を実施

##### ②挨拶の習慣化と授業規律の改善と向上

##### ③人権意識の向上

- \* 各学期にいじめアンケート調査を実施。

## 【探究・国際に関する分野】

### ■重点課題名：「教育の質向上」と「国際化（国際的に活躍できる人材の育成）」

#### （1）探究コースの成功と探究活動の充実

○探究活動の3年間の流れを検討（見直し）、職員に周知（見える化）しながら以下の活動に取り組んだ。

\* 「探究・国際部」を設置。探究活動の3年間の流れを検討し、職員会で周知した。

- ・1年生：活動内容の向上
- ・2年生：課題解決型研究テーマに従い活動
- ・3年生：研究論文の作成と外部発信

\* 3年生では、探究の研究を基に国公立大の推薦入試に合格。

\* 研究論文集の作成：400部作成

○探究活動の推進…下記の企画を実施

- |                                  |                    |
|----------------------------------|--------------------|
| (1) 東京都市大学教授講演（年6回実施）            | (2) 木曾路英語観光ボランティア  |
| (3) 哲学カフェ                        | (4) 文化祭発表          |
| (5) 中国から訪問の生徒との交流                | (6) 西の子サマースクール     |
| (7) 科学体験教室                       | (8) 塩尻市起業家育成プログラム  |
| (9) 丘中学校学習ボランティア                 | (10) 中国海外研修        |
| (11) 高校生プレゼンテーション大会              | (12) 県議会主体性を育む学び発表 |
| (13) ホームcomingデーにて留学生紹介・中国海外研修報告 |                    |
| (14) シリアスゲーム（総合地球環境学研究所）         |                    |
| (15) 極地研究所サイエンスカフェ               | (16) 起業家カンファレンス    |

#### （2）国際的に活躍できる人材の育成

○下記プログラムを実施

- (1) イングリッシュシャワー：12回実施。生徒参加者延べ人数104名。
- (2) Tokyo Global Gateway（台風により中止）
- (3) フィリピン語学研修：コロナウイルス感染拡大防止により延期。
- (4) 留学生交流：7名が各クラスに滞在し交流。

○オンライン英会話：水曜日の放課後に98名が受講。

○GTECを学校で8月と12月に実施。

1 学年 GTEC 270 ～ 689 (延べ 55 名)、690 ～ 959 (延べ 24 名)、960 ～ 1189 (延べ 2 名)

2 学年 GTEC 270 ～ 689 (延べ 109 名)、690 ～ 959 (延べ 98 名)、960 ～ 1189 (延べ 4 名)

3 学年 GTEC 英語検定を外部受検。

○CAN-DO リストを基にグランドデザイン作成完了。ボキャブラリーテストを実施。

○交換留学、交流活動

\* 中国海外研修（中国上海市甘泉外国語学校）生徒13名が参加。

\* トロントの Fieldstone School と姉妹校協定を締結。

○フィリピンのエンデラン大学指定校を獲得

○海外大学への進学指導を1名実施。

○留学生7名（ウルグアイ、韓国2名、マレーシア、ラオス、ネパール、ロシア）

○海外からの訪問学校(3校)を受け入れ。

\* Tully State High School（オーストラリア）

\* 諸暨市海亮外国語学校（中国）

\* 深圳市福田区上步中学（中国）

○海外訪問学生受け入れ

\* Brejning Efterskole(デンマーク)

○講演会（コンゴ民主共和国の起業家）を実施。